上毛新聞 2004

情報保全で公開実験

医療連携システム 群馬大などが安全性実証

病院や診療所がインターネット経由で患者情報を共有する県地域診療情報連携システムの実用化に向け、群馬大医学部附属病院（森下靖雄院長）とNPO地域診療情報連絡協議会（滝沢清美理事長）は二十二日、県庁で、情報流出に対する安全性を確認するセキュリティー公開実験を行った。

同システムは医療機関同士が患者を紹介する際などに必要となる診療情報を、ネットワーク上で共有することで、利便性の向上を目指す。診療履歴や病状、レントゲン画像などを、双方の医師のほか患者本人も閲覧できる。

インターネット経由で情報をやり取りするため、ハッカーによる攻撃や通信回線からの情報盗聴などに対するセキュリティーの確保が課題。公開実験は安全性の高さを実証することで、医療関係者らからの信頼を高めることを狙って行われた。

実験には医療関係者やコンピューター関連企業のエンジニアら約二十人が参加。持ち込んだコンピューターで①ハッカーからの攻撃②システム管理者による不必要な情報閲覧③通信回線からの盗聴―をシミュレーションし、安全性を確認した。

会場では滝沢理事長と同病院医療情報部長の酒巻哲夫教授が、元データ自体を暗号化して管理するなどの同システムの高度な安全対策を説明。「画像など大きなデータも瞬時に暗号化できる」「保存データも暗号化されており丸ごと盗まれても解読は不可能」などと解説した。

情報流出の防止策を実演したセキュリティー公開実験